

【生薬名】蓮肉(蓮子) *NELUMBIS SEMEN*

【起源植物】ハス *Nelumbo nucifera*



【科名】スイレン科 *Nymphaeaceae*

【別名】芙蓉ワヅ、浮葉ウバ、露堪草ツタケサ、露玉草ツタケサ、池見草ウヅミサ
古名；ハチス(蓮、荷、蜂巢)、藕實莖一名水芝丹(神農本草經)

【薬用部分】蓮肉；種子の仁、葉；荷葉、根茎；蓮根

【主成分】アルカロイド(ネフェリン、ロツシ、アナインなど)、澱粉、蛋白質、 raffinose、脂肪油

【薬性】気味は甘渋平、帰経は肝腎心に属す(蓮肉)

【効能】●清心益腎、健脾止瀉、益腎固渋

●蓮肉を通常用いる

●心火をさまして精神を安定させ、脾胃を補益して止瀉する

●収斂、鎮静、軽度の滋養強壯、止瀉、健胃薬

●下痢、精力減退、不眠、多夢、心臓の弱り、食欲不振などに

1日8gを煎じて分3服用する、粉末は1日6g

●精力減退に蓮肉・枸杞子・人参・何首烏・淫羊藿各4gを煎服

●咳には蓮根の節(藕節)を乾燥させたものを1日6~10gを煎服

【出典】●藕實莖、一名水芝丹、味甘平、生池澤、補中養神、益氣力、除百疾、久服輕身耐老、不飢延年、(神農本草經上品)

●蓮肉 味甘、脾を健にし、胃を理し、瀉を止め、精を渋り、心を清し気を養う。(薬性歌)

●療久痢腸滑。(一本堂薬選)

【備考】●成熟果実を石蓮子(又は蓮実)、殻をはぎ取った種子を蓮肉という

●蓮肉を料理に使う時は水につけてもどせばアク抜きになる

●蓮衣は強壯、荷梗(胚芽)は下熱、荷葉(葉)は下痢止め・止血、蓮房(花托)は駆瘀血剤、蓮花(花蕾)は止血、蓮鬚(雄ずい)は強壯に用いるなど植物全てが薬用として用いられている

【処方例】●清心蓮子飲、参苓白朮散